

知ってるようで知らない マンガのQ&A

きゅっきゅぽんさんに
教えてもらいました!

私たちの身近にあるマンガ。物語の内容や登場人物のことはよく知っていても、それを描いているマンガ家さんについて、よく知らない人が多いと思います。ここではベールに包まれたマンガ家の実態をきゅっきゅぽんさんに伺います。

Q. 噂どおり、生活は不規則なんですか?

Question 1

A. 世間のイメージよりは、規則正しい生活を送っています。仕事柄、決まりのない環境の中で生活しているので、自分でルールを決めたり、時間を意識して過ごすようにしています。締切の前など、時々守れない時もありますけどね(笑)

Q. マンガ家さんに休日はありますか?

Question 2

A. 個人差ありますが私の場合は、休みはないです。そうはいつでも自由勤務なので好きときに外出するんですが、遊んでいる時でも何かいい「ひらめき」があれば、その場で絵を描いたりしているので1日休みっていう日はありません。

Q. ファンレターは読んでいますか?

Question 3

A. 全てに返信はできませんが、ファンレターやSNSに寄せられるメッセージは全て読んでいます。皆さんからの言葉は「頑張るパロメーター!」と言っても過言ではありません。本当に感謝しています。



↑お盆や正月時期など、季節の節目での帰省中にもマンガ執筆にいそむきゅっきゅぽんさん。

きゅっきゅぽんさん

福智町出身。平成24年に読切マンガ「タキさんちのスパイ」で小学館新人コミック大賞入選を果たしプロデビュー。多数の読切を発表し平成28年に「星間ブリッジ」で連載デビュー。前作の好評を受け今年9月から2作目の連載「Bowling! ボウイング」が開始。多彩な才能が集まるゲッサンの中でも異彩を放つ唯一無二の作風で注目されている。

福智町で生まれ育ったマンガ家・きゅっきゅぽん。多彩な才能ひしめく世界でただひたすら夢を描き続ける1人の作家の物語を追います。



決意込めた大告白が運命を分ける大転機に
大学では日本画を学ぶ傍ら本格的にマンガ執筆を開始。30ページ描くことすら困難とされるマンガをなんとか描き上げ、出版社へ持ち込み投稿しますが、「太い線が少女マンガ向きじゃない。絵が独特過ぎる」と、願う結果を出せない日々が続きます。気づけば大学3年生。友人が就職活動を始める中、更に不安もかき立てられます。そこで自分の決意を固めるため、当時執筆中の作品を手にとり、初めて両親に「マンガ家になりたい」と打ち明けたといいます。両親からは強い反対を受けることはありませんが「お金を払って、また



↑表情描写にこだわる所も実感を込める工夫のひとつ。

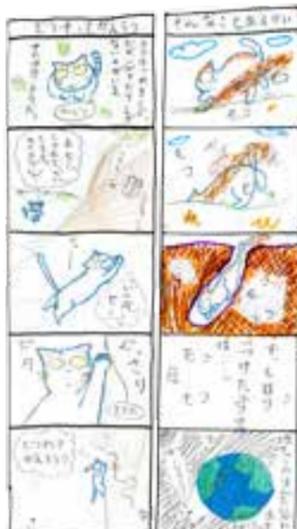
会いたいキャラクターじゃない」と厳しい感想が向けられました。その言葉の意味を考え抜いた結果「無理に物語を面白くするよりも、誰もがリアルに感じる、実感のこもったマンガを書こう」と決意。今までの方針を大きく変える転機となりました。

10年の思いを託したマンガで切り開いた自らが進む道

そして描き上げた実感重視のマンガを持ち込んだのは、大手出版社「小学館」。読み終えた編集者から「古くさい絵が逆に新しい。弱みは強みでもある」と評価を受け、人気作家を多数生み出した新人マンガ賞「小学館新人コミック大賞」の少年部門に応募しました。審査員はマンガ界の巨匠たちが名を連ねます。大人気作「名探偵コナン」の青山剛昌先生からも「とにかく抜群に絵が上手い!!」とお墨付きを受け、大学4年生のときに堂々の入選。必死に追いかけてきた「マンガ家」という夢に一步踏み出した瞬間でした。

特集 2019 11 7 福智 FUKUCHI

Gペンと描く夢



「鬼才・きゅっきゅぽん物語」はじまりの、はじまり
線は太く、そして力強い——でもどこか柔らかさが残る絵のタッチで多くの人を魅了する福智町出身のマンガ家・きゅっきゅぽんさん。ある一人の鬼才が歩んできた物語とは、どのようなものなのでしょうか。
両親ともに美術教諭の家庭に生まれ、幼い頃から絵に親しみながら育ったきゅっきゅぽんさん。家では好きな絵を描くか、母親の希望で始めたバイオリンの練習をしながら幼少期を過ごします。漠然と絵を描ける仕事をしたいと思っていたものの、具体的に想像できないまま月日は流れました。そして中学2年生のとき、小山ゆう先生の代表作「お〜い! 龍馬」と出会います。「マンガでこんなに人の心を動かせるんだ!」と、大きな衝撃を受け、マンガ家を目指すようになったきゅっきゅぽんさん。しかし、家族には夢を打ち明けられないまま東京の美大に進学しました。

←小学校高学年のときに初めて描いた猫のマンガ。ペンネームも飼っていた野良猫の名前が由来。

Column-2- マンガの作り方と 多様な道具たち

マンガはどんな道具を使い、どの ようにして、作られているのでしょ うか。きゅつきゅぽんさんのマンガ 制作方法・道具を徹底解説します！



ようやく完成！

完成した原稿はデータ化▶ 印刷▶製本される。全国の 書店やインターネット上で 販売され、読者の元に届く。



- 1 消しゴムのカスを払う「羽根ブラシ」
- 2 枠線用「ミリペン」
- 3 きゅつきゅぽんさんお手製のおもしろ人物や背景などを描く「Gペン⑥・丸ペン⑦」
- 4 製図用インク（ペン先をインクに浸して描く）
- 5 曲線を描く「雲形定規」
- 6 にじみ防止用「1円玉定規」（マンガ家が自作することで有名）
- 7 背景を貼る「トーンスティック」
- 8 トーンを切るための「ペンナイフ」



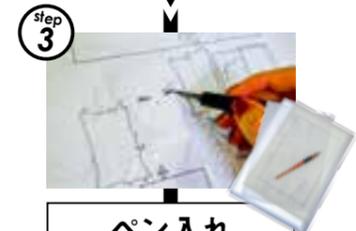
アイデア出し・ネームの作成

マンガの肝である物語の題材や内容、登場キャラクターなど基礎情報を考える。基礎を固めたらコマ割（基本は1Pに6コマ）しながら大まかに絵を描いていく。



下書き

ネームを参考に、より具体的に絵を描いていく。同時にセリフなども考えるが、それ以外の言葉は書かない。



ペン入れ

下書きをトレース台に挟み上に敷いた原稿用紙を敷く。光で透かし浮かび上がった線をGペンでなぞり描写する。



べた塗り

髪の毛や服など、黒い部分を塗りつぶしていく。道具は、市販されている筆ペンを使用するのが一般的。



ホワイト塗り

絵を魅力的に表現するため市販の修正液などを使い、目や髪の毛の一部を塗りつぶし光の反射を表現する。



背景の作画・トーンの貼付

背景を描く作業だがアシスタントに任せる場合が多い。同時に人影や服に柄を付けるためのトーンシートを随所に切り貼りする。



連載終了後、二人の写真

昭和10年頃「星間ブリッジ」のモデルの祖母⑧と曾祖母⑨が撮った写真が連載終了後に見つかりました。異国・上海で旗袍（チャイナドレス）に身を包み満面の笑みを見せる様子は登場するキャラクターのイメージそのまま。



実感にこだわるあまり、およそ50冊の参考資料を購入。また当時の上海の人や物、雰囲気を実際に体感するための取材旅行をするなど、一から学び直したといえます。そして迷い、不安になりながらも描き上げた初連載「星間ブリッジ」。物語の進行も「敵国同士でも心はつながっていたことをどう表現すれば伝わるか日々葛藤しました」と、執筆中の苦労をにじませます。その物語はSNS上で「いい話でずんずん引き込まれた」「何度も何度も感動して泣きそうになる作品」など、予想以上の反響でした。その声は国内に留まらず、中国やアメリカなどからもコメントが寄せられ、約2年間続いた「星間ブリッジ」は、国や言語を超え、多くの共感を呼びました。



”私が愛した祖国は… あなたの街を焼きました。”

—星間ブリッジ— あらすじ

舞台は昭和初期。日中戦争が起こる1年前、中国・上海に渡った長崎の少女・ハル。その地で中国人の少年・シンと運命の出会いを果たし、親交を深めていきます。しかし、時は激動の日中戦争へ——。時代に翻弄されながらも強く生きる二人の運命はいかに…。

90歳を超える祖母が過ごした青春時代は、日中戦争さなかの敵国・上海。当然、悲しい体験談ばかりだと思っていたきゅつきゅぽんさんの想像と、祖母から語られた現実とは少し違っていました。上海にあったパートへ買い物に行くことが楽しみで仕方なかったこと、少女向け雑誌に胸をときめかせていたこと——。現代を生きる私たちと同じ様に、戦時中の少年・少女たちも

念願のプロデビューを果たした「ゲッサン」の付録本で、読み切りマンガを数本発表した後、いよいよずっと夢見ていた連載マンガ家になってきたきゅつきゅぽんさん。しかし、ラブコメ、スポーツ、医療など、どのジャンルも自分の創作意欲をかき立てられずテーマ選びから難航していました。そんなとき、ふと大学時代に長崎の祖母から聞いた話を思い出したと言います。



”2人だったら最強だね！ なあ、ぼくら… 「兄弟」になろうや！”

シンが中国人という理由で差別されたり、街で感じた日本人への厳しい眼差しから、日本と中国が敵国同士である事実を痛感するハル。悲しくなったハルは「私たち敵なん…？」とシンを訪ねるが…。

題材も固まり、いざマンガの構成を考え始めたきゅつきゅぽんさん。 学び・迷い・不安の末に 国を超えて伝わった思い

はつらつとした青春時代を送っていたことを知り「自分自身が過ごした中学・高校時代と同じような感覚がありました」と、想像とは異なる印象に大きな衝撃を受けたといえます。「この話であれば描ける」という感じなきゅつきゅぽんさんは担当者にこの話を伝え、自身初の連載マンガ「星間ブリッジ」の執筆を始めます。

せい かん 星間ブリッジ

制作秘話

おばあちゃんの昔話から 初連載「星間ブリッジ」誕生





描いた「夢」、そして「今」 変わらぬ思いを胸に。

ひたすら考え抜いた1年間
見つけたひとつの答え

「人を楽しませること。本当のエ
ンターテインメントとは何か、につ
いて深く考えるようになりました。
初の連載終了後、1つの作品を完成
させた達成感を感じつつも、今後の
目標を見失っていたきゅつきゅぼん
さんは、心の中にある「本当に目指
すべきマンガとは」という疑問と自
分なりに向き合うことにしたと言
います。「家でゴロゴロしながら好き
な映画を見たり、エンターテインメン
トとは」と銘打たれたビジネス書を

読んだり。人を楽しませるって何だ
ろうとずっと考えていました」と振
り返ります。新しいマンガを執筆す
ることもなく、自分自身と向き合
うこと約1年。「死」という人間最
大の悲しみで人の心が動くのは当た
り前。戦争を扱った前作のように悲
しみから感動を与えるのではなく、
笑いあり涙あり、考えることもある
けれど、読み終わったあとにスッキ
リする——。私が中学生の時に感
じたあの感覚を読者に与えるマンガ
を描きたい」。1つの答えにたどり
着いたきゅつきゅぼんさんは、再び
ペンを取ることを決めました。

「Bowling! ボウイング」 決意の先に新たな「夢」

新たな決意で描き上げた新連載
「Bowling! ボウイング」。田舎町を舞
台に音を見失った天才バイオリン奏
者の少女と音を探す少年が展開す
る本格弦楽マンガです。「自然豊か
な地元が好きなので、作中には福
智町を連想させる風景が多く登場
します」と、頬を緩ませながら語る
きゅつきゅぼんさん。「物語も挫折や
出会い、成長を軸に展開していき
ます。誰もが1度は感じたことであ
る、あの感覚を作中のキャラクター
と一緒に体感してもらえらるマンガを
描いていきたいです」と意欲を燃や
しています。新連載もまだまだ序盤。
人を心の底から楽しませるマンガ
を描きたい——。新たな夢を追う
きゅつきゅぼんさんは、これからも
Gペンを力強く走らせ続けます。

自分の中の
わくわくする気もちの種を
大切に玄月まで
みててください。
何か面白い花が
咲くかも!!

Bowling!

本格弦楽物語、
アンサンブル開始!!

ボウイング

ボウイング
-Bowling!- あらすじ
バイオリンの天才少女・久保提凜音は、
弾くことを恐れステージに立てなくなり
母親が育った田舎に逃れることに—。
凜音はその地で特別な「耳」を持つ少年
朝倉てんと出会う。2人の出会いが空
高き田舎町にハーモニーを響かせる!

月刊少年サンデー
『アマガミ』と同時
大手出版社「小学館」が、
中高生以上の幅広い年代
の男性向けに発行する漫
画雑誌。「ゲッサン」は「月
刊少年サンデー」の略称。
平成21年5月12日に創刊。
毎月12日に大好評発売中!



福智町立図書館・歴史資料館「ふくちのち」× 広報 FUKUCHI = 特別コラボ企画!

きゅつきゅぼん展2019

園 ぶくちのち (福智町赤池970-2) ☎28-2855

過去の作品や直筆サイン、
新聞記事、関連本など
を展示する企画展がふくち
のちで行われています。また
「メッセージ投稿コーナー」
を特設。寄せられたお手
紙は後日、きゅつきゅぼん
さんへ直接お届けします!

期間▶ 10月21日(日)
~翌年1月6日(日)
場所▶ ふくちのち
カウンター前

← 自前で準備した用紙に記入
したお手紙も受付可能です。



直筆サインを
間近で見よう!

新連載の
ボウイング
も閲覧できます。